

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者※の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞	
房室結節リエントリー性頻拍に対し、分裂電位への高周波・冷凍アブレーション治療の当院での成績の検討	
＜研究機関・研究責任者名＞	
日本大学医学部内科系循環器内科学分野（附属板橋病院循環器内科）・准教授 永嶋 孝一	
＜研究期間＞	
機関の長の初回許可日	～ 令和 7（西暦 2025）年 3 月 31 日
＜対象となる方＞	
2015年1月1日～2024年10月31日の期間に、房室結節リエントリー性頻拍に、心臓電気生理学的検査およびカテーテルアブレーションを施行した方。	
＜研究の目的＞	
房室結節リエントリー性頻拍（AVNRT）は、房室結節内の速伝導路（fast pathway）と遅伝導路（slow pathway）を回路としてリエントリーを形成する頻拍である。AVNRT における高周波カテーテルアブレーションの急性期成功率は 97%前後と高い成功率が報告されており、現在本治療は第一選択となっている。一方近年、冷凍病変を形成するクライオアブレーションが登場し、房室ブロックのリスクの少ない安全な AVNRT の治療のための代替的アプローチとして登場した。従来の高周波通電では数%の房室ブロックのリスクが報告されているが、本治療では房室ブロックが起きてもすぐに冷凍を中止すれば、永続的な房室ブロックが 0%であるという報告も多い。また、近年3次元マッピングシステムを用いて slow pathway 部位を推測できる可能性が報告されている。しかしながら、AVNRT に対する房室ブロックのリスクが少なく有効な治療法についてのデータは少ない。これらの治療法で、AVNRT の停止率や、冷凍回数、手技時間、透視量、合併症の有無や長期治療成績についてを比較する。	
＜研究の方法＞	
房室結節リエントリー性頻拍のカテーテルアブレーション中に、心臓電気生理学的検査およびアブレーション中の心内心電図、3D mapping system のデータを使用します。	
＜研究に用いる試料・情報の項目＞	
房室結節リエントリー性頻拍に対して、日本大学医学部附属板橋病院循環器内科でカテーテルアブレーション施行歴をする方もしくはこれから施行する方で、心電図や心臓電気生理学的検査およびアブレーション中の心内心電図、3D mapping system データ、外来検査データ、診療記録等を使用します。	
＜研究を実施する機関組織＞	
日本大学医学部内科系循環器内科学分野（附属板橋病院循環器内科）	

<お問い合わせ窓口>

研究責任者 循環器内科 永嶋孝一

〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町 30-1 日本大学医学部附属板橋病院循環器内科
03-3972-8111（内線） 8142

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方